

# 平成 20 年度市政モニター 第 2 回アンケート結果

テーマ

「八王子市立小・中学校適正配置等に関する基本方針の骨子について」

学校教育部学事課

八王子市総合政策部広聴広報室

# 目 次

〈市政モニターの属性〉	1
-------------	---

## テーマ

### 【八王子市立小・中学校適正配置等に関する基本方針の骨子について】

問 1 .	望ましいと考える小学校の規模（学級数）について	2
問 2 .	問1の選択項目を選んだ理由について	3
問 3 .	望ましいと考える中学校の規模（学級数）について	4
問 4 .	問3の選択項目を選んだ理由について	5
問 5 .	学校と地域の関わり方について	6
問 6 .	小学生の通学時間について	7
問 7 .	中学生の通学時間について	7
問 8 .	学校の適正配置の推進について	8
問 9 .	適正配置の具体的な進め方について	9
問 10 .	通学の安心・安全の確保に有効な方策について	10
問 11 .	学校の統合を行なう際に充実すべき学校施設・設備について	11
問 12 .	廃校となった学校施設の有効な活用方法について	12

## 市政モニターの属性

(太枠内は今回の回収数)

		一般		Eメール		合計	
全 体		45	42	54	54	99	96
性別	男 性	19	17	25	25	44	42
	女 性	26	25	29	29	55	54
年 代	10歳代	0	0	0	0	0	0
	20歳代	6	6	5	5	11	11
	30歳代	8	7	13	13	21	20
	40歳代	6	6	11	11	17	17
	50歳代	8	8	7	7	15	15
	60歳代	9	7	14	14	23	21
	70歳代	6	6	4	4	10	10
	80歳代	2	2	0	0	2	2
地 区	中 央 (本庁地区)	8	8	10	10	18	18
	西南部 (浅川・横山・館地区)	9	7	12	12	21	19
	東 部 (由木・由木東・南大沢地区)	10	10	11	11	21	21
	西 部 (元八王子・恩方・川口地区)	7	6	4	4	11	10
	東南部 (由井・北野地区)	8	8	12	12	20	20
	北 部 (加住・石川地区)	3	3	5	5	8	8

アンケート実施期間:平成 20 年9月 17 日から平成 20 年9月 26 日まで

回収率:96.9%

回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で表示した。(百分率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出してあるため、合計が100%にならない場合がある。また、複数回答の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。)

**八王子市立小・中学校適正配置等に関する基本方針の骨子について**

学校教育部学事課

近年の少子化の進行などから、市内の小・中学校の小規模化が進んでいる一方で、大規模な住宅開発により、子どもの数が増加している地域があり、学校規模に大きな差が生じています。

また、本市では、学校選択制や特色ある学校づくりの推進、小中一貫教育や地域運営学校の実施などにより教育改革に取り組んでいます。

今後も教育環境を整備・充実していくために、学校の適正配置・適正規模等に関する基本方針を策定し、適正配置を推進していく必要があると考えています。

そこで、「市立小・中学校の適正配置に関する基本方針の骨子」について伺います。

**小・中学校の配置・規模について**

問 1 . 児童（小学生）の学習面や生活面、教員の指導面などから、あなたが望ましいと考える小学校の規模（学級数）は、どの程度の規模ですか。

（ は 1 つだけ）

( n=96 )                  ( n=54 )                  ( n=42 )

	合 計 (%)	メー ル (%)	一 般 (%)
18 学級程度 ( 1 学年 3 クラス )	60.4	61.1	59.5
12 学級程度 ( 1 学年 2 クラス )	16.7	14.8	19.0
24 学級程度 ( 1 学年 4 クラス )	16.7	16.7	16.7
30 学級程度 ( 1 学年 5 クラス )	4.2	5.6	2.4
6 学級程度 ( 1 学年 1 クラス )	2.1	1.9	2.4
わからない	0.0	0.0	0.0

望ましいと考える小学校の規模（学級数）はどの程度か聞いたところ、「18 学級程度（1 学年 3 クラス）」が約 6 割（60.4%）で最も高く、「12 学級程度（1 学年 2 クラス）」と「24 学級程度（1 学年 4 クラス）」が 1 割半ば（16.7%）で続いた。

問2 . 問1の選択項目を選んだ理由について、あなたの考えに最も近いのはどれですか。( は1つだけ)

	(n=96)	(n=54)	(n=42)
	合計(%)	メール(%)	一般(%)
学習面・生活面、教員の指導面等から適当な規模と考える	54.2	48.1	61.9
児童数が多い方が、集団生活の中でより多様な個性と触れ合うことができる	17.7	24.1	9.5
児童数が多い方が、活気ある教育環境が形成できる	12.5	13.0	11.9
児童数が少ない方が、落ち着いた教育環境が形成できる	11.5	9.3	14.3
児童数が少ない方が、個別指導が行き届くと考える	4.2	5.6	2.4
学校規模(学級数)が小さいと教員数が少なくなる	0.0	0.0	0.0
学校規模(学級数)が大きいと学校内の施設の利用が制限される	0.0	0.0	0.0

問1の選択項目を選んだ理由を聞いたところ、「学習面・生活面、教員の指導面等から適当な規模と考える」が5割半ば(54.2%)で突出して高く、ついで「児童数が多い方が、集団生活の中でより多様な個性と触れ合うことができる」が2割弱(17.7%)で続いた。

また一方で、「学校規模(学級数)が小さいと教員数が少なくなる」と「学校規模(学級数)が大きいと学校内の施設の利用が制限される」は0.0%であった。

問3. 生徒(中学生)の学習面や生活面、教員の指導面などから、あなたが望ましいと考える中学校の規模(学級数)は、どの程度の規模ですか。( は1つだけ)

	(n=96)	(n=54)	(n=42)
	合計(%)	メール(%)	一般(%)
12学級程度(1学年4クラス)	38.5	42.6	33.3
9学級程度(1学年3クラス)	30.2	25.9	35.7
15学級程度(1学年5クラス)	15.6	14.8	16.7
18学級程度(1学年6クラス)	8.3	11.1	4.8
6学級程度(1学年2クラス)	4.2	5.6	2.4
21学級程度(1学年7クラス)	2.1	0.0	4.8
3学級程度(1学年1クラス)	1.0	0.0	2.4
24学級程度(1学年8クラス)	0.0	0.0	0.0
わからない	0.0	0.0	0.0

望ましいと考える中学校の規模(学級数)は、どの程度か聞いたところ、「12学級程度(1学年4クラス)」が4割弱(38.5%)で最も高く、ついで「9学級程度(1学年3クラス)」が約3割(30.2%)で続いた。

問4 . 問3の選択項目を選んだ理由について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。( は1つだけ)

	(n=96)	(n=54)	(n=42)
	合計(%)	メール(%)	一般(%)
学習面・生活面、教員の指導面等から適当な規模と考える	45.8	38.9	54.8
生徒数が多い方が、集団生活の中でより多様な個性と触れ合うことができる	19.8	27.8	9.5
生徒数が多い方が、活気ある教育環境が形成できる	9.4	11.1	7.1
学校規模(学級数)が小さいと教員数が少なくなる。また、選択教科や部活動の種類が制限される	9.4	9.3	9.5
生徒数が少ない方が、個別指導が行き届くと考える	7.3	3.7	11.9
生徒数が少ない方が、落ち着いた教育環境が形成できる	6.3	5.6	7.1
学校規模(学級数)が大きいと学校内の施設の利用が制限される	1.0	1.9	0.0
無回答	1.0	1.9	0.0

問3の選択項目を選択した理由を聞いたところ、「学習面・生活面、教員の指導面等から適当な規模と考える」が4割半ば(45.8%)で突出して高く、ついで「生徒数が多い方が、集団生活の中でより多様な個性と触れ合うことができる」が約2割(19.8%)で続いた。

## 学校と地域との連携について

問5 . 様々な教育課題に取り組む学校教育を充実していくためには、今後も学校と地域のいっそうの連携が不可欠と考えていますが、学校と地域の関わり方として、あなたの考えに最も近いのはどれですか。( は1つだけ)

	(n=96)	(n=54)	(n=42)
	合計(%)	メール(%)	一般(%)
学校が主体となりながら地域が協力していくことが望ましい	43.8	46.3	40.5
地域の活性化を図るためにも学校を地域の核にしなが ら連携を進めるべきである	17.7	18.5	16.7
地域の実情に応じて連携を進めていけばよい	15.6	13.0	19.0
学校と地域は、対等な立場で積極的に連携していくべ きである	13.5	18.5	7.1
地域のまとまりが稀薄になっているので、学校と地域 の連携は困難である	4.2	1.9	7.1
地域が主体となり積極的に学校経営に参画していくべ きである	2.1	0.0	4.8
教育は行政や学校が主体的に行なうべきで、地域の参 画は必要ない	2.1	0.0	4.8
無回答	1.0	1.9	0.0

学校と地域の関わり方について聞いたところ、「学校が主体となりながら地域が協力していくことが望ましい」が4割強(43.8%)で最も高く、ついで「地域の活性化を図るためにも学校を地域の核にしなが  
ら連携を進めるべきである」が2割弱(17.7%)、「地域の実情に応じて連携を進めていけばよい」が1割半ば(15.6%)で続いた。



## 通学環境について

問6 . 小学生の通学時間は、どの程度が望ましいと思いますか。( は1つだけ)  
通学手段(徒歩、バス、電車、自転車等)は問わない

	(n=96)	(n=54)	(n=42)
	合計(%)	メール(%)	一般(%)
30分以内	50.0	40.7	61.9
15分以内	49.0	57.4	38.1
60分以内	1.0	1.9	0.0
45分以内	0.0	0.0	0.0

小学生の通学時間は、どの程度が望ましいか聞いたところ、「30分以内」が5割(50.0%)、「15分以内」(49.0%)で拮抗している。

問7 . 中学生の通学時間は、どの程度が望ましいと思いますか。( は1つだけ)  
通学手段(徒歩、バス、電車、自転車等)は問わない

	(n=96)	(n=54)	(n=42)
	合計(%)	メール(%)	一般(%)
30分以内	69.8	64.8	76.2
45分以内	13.5	11.1	16.7
15分以内	8.3	11.1	4.8
60分以内	8.3	13.0	2.4
60分以上	0.0	0.0	0.0

中学生の通学時間は、どの程度が望ましいか聞いたところ、「30分以内」が7割弱(69.8%)で突出して高く、ついで「45分以内」が1割強(13.5%)であった。

## 学校の適正配置の進め方について

問 8 . 教育環境を整備していく上では、地域の実情に応じながら、学校規模や通学距離等を考慮し、学校の適正な配置を推進していくことが必要ですが、適正配置を推進していく考え方として、あなたの考えに最も近いのはどれですか。

( は1つだけ)

	(n=96)	(n=54)	(n=42)
	合 計(%)	メ-ル(%)	一 般(%)
地域の実情に応じて統廃合の是非を考えるべきである	35.4	37.0	33.3
少子化が進行する現状を踏まえ、統廃合はやむを得ないと思う	27.1	31.5	21.4
通学の保障を優先的に考えて統廃合の是非を考えるべきである	16.7	14.8	19.0
望ましい学校の規模を維持するために統廃合を進めるべきである	6.3	5.6	7.1
子どもたちへの影響を考え、できるだけ統廃合はしない方がよい	5.2	1.9	9.5
学校の伝統や歴史に配慮し、統廃合の是非を考えるべきである	3.1	1.9	4.8
市の財政的な視点から統廃合を行なうべきである	2.1	3.7	0.0
地域への影響を考え、できるだけ統廃合はしない方がよい	1.0	1.9	0.0
その他	3.1	1.9	4.8

適正配置を推進していく考え方として、自身の考えに最も近いものを聞いたところ、「地域の実情に応じて統廃合の是非を考えるべきである」が3割半ば(35.4%)で最も高く、ついで「少子化が進行する現状を踏まえ、統廃合はやむを得ないと思う」が3割弱(27.1%)で続いた。

### 【その他】

- 1 子ども達の通学の負担、親の経済的負担に偏りが出るようなら、それを助成する制度をつくってから統廃合の是非を考えてほしい。
- 2 同一校舎での小中一貫教育、生徒の通学時間、人数、教職員の適正数確保適正配置等を考え合わせ、学校の適正配置を考えなければならないと思う。

- 3 基本的には学校を残して生徒が通学しやすいようにするのが望ましい。しかし、生徒数があまりに少ないとなると先生をあてがってくれない制約があるのであれば統廃合もやむを得ないと思う。

問9 . 適正配置を推進していく上では、保護者や地域住民と合意形成を図りながら検討していくことが大切ですが、具体的な進め方として、どのように考えますか。  
( は1つだけ)

	(n=96)	(n=54)	(n=42)
	合計(%)	メール(%)	一般(%)
あらかじめ住民の意見を十分に聞いてから、行政が具体的な提案をすべきである	32.3	35.2	28.6
議論の過程の公開やルール作りが大切であるため、検討会や協議会を設置することが不可欠である	26.0	22.2	31.0
行政が方針を明確に示しながら具体的な提案を行い、行政主導で住民の理解を求めていくのがよい	20.8	22.2	19.0
保護者や住民相互で検討した結果を最大限に尊重すべきである	10.4	9.3	11.9
有識者等専門的な知識を有する者を加えて検討していくべきである	7.3	9.3	4.8
その他	3.1	1.9	4.8

適正配置を推進していく上で、保護者や地域住民と合意形成を図りながら検討していくための具体的な進め方について聞いたところ、「あらかじめ住民の意見を十分に聞いてから、行政が具体的な提案をすべきである」が3割強(32.3%)で最も高く、ついで「議論の過程の公開やルール作りが大切であるため、検討会や協議会を設置することが不可欠である」が2割半ば(26.0%)で続いた。

【その他】

- 1 あらかじめ住民の意見を十分に聞いたうえで、行政が具体的に提案し専門的な知識を有する人を加えてよく検討していくべきと思う。
- 2 どうしても保護者のエゴが出るので、まず誰もが納得する基準で配置を決めた上で、不利益、不都合を生ずる生徒等については、補完方法を教えるべきだと思う。

問 10 . 適正配置を推進していく上では通学環境への配慮が必要ですが、通学の安心・安全の確保として有効と思われる方策は何ですか。( は3つまで)

	(n=96)	(n=54)	(n=42)
	合 計(%)	メー ル(%)	一 般(%)
交通指導員や通学指導員の配置	47.9	44.4	52.4
学校安全ボランティア等の協力	38.5	38.9	38.1
地域住民による見守りやパトロール	38.5	42.6	33.3
子どもたちへの安全教育の充実	34.4	37.0	31.0
歩道・信号機等の整備	32.3	22.2	45.2
保護者による見守りやパトロール	29.2	31.5	26.2
スクールバス等による通学	19.8	24.1	14.3
不審者情報の配信	17.7	13.0	23.8
防犯ブザーなど防犯用品の携行	13.5	13.0	14.3
携帯電話の携行	2.1	1.9	2.4
その他	3.1	3.7	2.4

(複数回答)

通学の安心・安全の確保として有効と思われる方策を聞いたところ、「交通指導員や通学指導員の配置」が5割弱(47.9%)と最も高かった。「学校安全ボランティア等の協力」「地域住民による見守りやパトロール」が4割弱(38.5%)の同数で続いた。

【その他】

- 1 小学生のグループ登下校
- 2 シルバーなどの方達の支援を期待したいが、地域によってばらつきがあるので、交通指導員や通学指導員の適正配置が必要と考える。
- 3 通学路周辺の整備と美化。鑑水地区は未開発の土地(草ヤブ)が多く、不審者の有無はもちろんのこと、万が一連れて行かれたりしても、近くに居てさえわかりづらい状況である。

問 11 . 学校の統合を行なう場合、充実すべき学校の施設・設備は何ですか。

( は3つまで )

	( n=96 )	( n=54 )	( n=42 )
	合 計 (%)	メー ル (%)	一 般 (%)
校舎・体育館の耐震化	64.6	63.0	66.7
不審者の侵入防止等防犯設備	49.0	46.3	52.4
老朽化した施設・設備の修繕や改修	42.7	48.1	35.7
環境配備や暑さ対策としての校庭の芝生化及び屋上や壁等の緑化	27.1	29.6	23.8
小学校と中学校が併設された小中一貫校	26.0	25.9	26.2
地域住民が利用できる教室・ホール等の整備	20.8	20.4	21.4
トイレなど衛生面の施設整備	19.8	18.5	21.4
校内LANの整備やパソコンの配備	10.4	14.8	4.8
少人数学習ができる教室の確保	8.3	5.6	11.9
床・通路・階段等のバリアフリー化	6.3	1.9	11.9
その他	3.1	1.9	4.8
無回答	1.0	0.0	2.4

(複数回答)

学校の統合を行なう場合、充実すべき学校の施設・設備は何か聞いたところ、「校舎・体育館の耐震化」が6割半ば(64.6%)で最も高かった。「不審者の侵入防止等防犯設備」が5割弱(49.0%)、「老朽化した施設・設備の修繕や改修」が4割強(42.7%)で続いた。

#### 【その他】

- 1 選択項目の「校舎・体育館の耐震化」「老朽化した施設・設備の修繕や改修」「不審者の侵入防止等防犯設備」「床・通路・階段等のバリアフリー化」「トイレなど衛生面の施設整備」は、そこで活動する人全てに対する安全な生活の確保の観点から総合的に実施されるべきである。
- 2 理科・化学・生物の実験室、家庭科・工作の作業室といった体験学習施設(設備)の充実を図る。
- 3 冷暖房の設備
- 4 特別支援教育など、時代の要請に応じた教育ができる環境(クールダウンルームなど)

問 12 . 廃校となった場合、学校施設の有効な活用方法は何か。

	(n=96)	(n=54)	(n=42)
	合 計(%)	メー ル(%)	一 般(%)
地域のコミュニティ施設	57.3	57.4	57.1
スポーツ・文化活動や生涯学習活動のための施設	50.0	48.1	52.4
高齢者・障害者等の福祉施設	43.8	50.0	35.7
子どもの居場所づくりのための施設	43.8	50.0	35.7
一時避難所等防災施設	28.1	20.4	38.1
図書館や美術館などの教育・文化施設	22.9	20.4	26.2
民間や企業等への貸し出し	16.7	18.5	14.3
施設の売却処分	9.4	9.3	9.5
マンション等住宅用地への転用	6.3	3.7	9.5
商業・業務用地への転用	4.2	1.9	7.1
その他	2.1	1.9	2.4

(複数回答)

廃校となった場合、学校施設の有効な活用方法は何か聞いたところ、「地域のコミュニティ施設」が6割弱(57.3%)で最も高く、ついで「スポーツ・文化活動や生涯学習活動のための施設」が5割(50.0%)、「高齢者・障害者等の福祉施設」と「子どもの居場所づくりのための施設」が4割強(43.8%)の同数で続いた。

#### 【その他】

- 1 廃校となった場合の学校施設が団体等への貸し出しで市の収入源になれば、有効な利用方法ではないかと考え、選択項目の「スポーツ・文化活動や生涯学習活動のための施設」も利用料を徴取することで維持費も確保でき、長く存続できるのではないかと考えている。
- 2 保育園、幼稚園、特別養護老人施設の併設
- 3 元々公共施設なので住民に活用できる選択が望ましい。しかし、遊ばせておくと建物の老朽化も進むので使う方向がよいと思う。
- 4 「世田谷ものづくり学校」のような施設